

平成24年 月 日

文 部 科 学 大 臣 殿

大学の設置者の所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	
大学の設置者の名称	国立大学法人京都大学	
(職名) フリガナ 代表者氏名	(総長) マツモト ヒロシ 松 本 紘	(記名押印又は署名)
大学名 及び機関番号	京都大学	14301

平成23年度研究拠点形成費等補助金（研究拠点形成費（機関補助））実績報告書
（ 拠 点 形 成 実 績 報 告 書 ）

整理番号	I09	開始年度	20年度	学問分野	社会科学
拠点のプログラム名称 親密圏と公共圏の再編 成をめざすアジア拠点		拠点リーダー名 落合 恵美子		専攻等名（拠点となる大学） 文学研究科（行動文化学専攻）・ 教育学研究科（教育科学専攻）・ 人間・環境学研究科（共生人間学 専攻）・法学研究科（法政理論専 攻）・経済学研究科（経済学専攻 ）・農学研究科（生物資源経済学 専攻）・人文科学研究所・地域研 究統合情報センター	
連携先の大学名					
事業推進担当者 計 21名					
フリガナ 氏名（年齢）	所属部局・職名	現在の 専門・学位	役割分担（本年度の教育研究実施計画における分担事項）等		
(拠点リーダー) 落合恵美子 (54)	文学研究科（行動文化学専攻）・ 教授	家族社会学 東大・社修	拠点リーダー、政策研究班、 学際教育プログラム（家族社会学）		
伊藤公雄 (60)	文学研究科（行動文化学専攻）・ 教授	文化社会学・ジェン ダー論 京大・文修	成果公開部門総括、政策研究班、学際教育プロ グラム（ジェンダー論、メディア論）		
松田素二 (56)	文学研究科（行動文化学専攻）・ 教授	地域社会学、社会人 類学 京大・文博	教育実践部門総括、フィールド調査班、学際教育プロ グラム（地域社会学・人類学）		
田中紀行 (50)	文学研究科（行動文化学専攻）・ 准教授	社会学史 京大・文修	理論研究班、学際教育プログラム （理論社会学）		
富永茂樹 (62)	人文科学研究所（文化生成研究部 門）・教授	知識社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム （知識社会学）		
竹沢泰子 (54)	人文科学研究所（文化連関研究部 門）・教授	社会人類学 ワシントン大・Ph.D	フィールド調査班、学際教育プログラム （移民研究）		
押川文子 (61)	地域研究統合情報センター（情報資源 研究部門）・教授	南アジア地域研究 お茶の水大・文修	研究推進部門総括、フィールド調査班、学際教育プロ グラム（アジア社会論）		
高橋由典 (61)	人間・環境学研究科（共生人間学 専攻）・教授	感情の社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム （感情社会学）		

吉田純 (52)	高等教育研究開発推進センター(全学 共通教育カリキュラム企画開発部門)・ 教授	社会学・社会情報学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム (社会情報学)
稲垣恭子 (56)	教育学研究科(教育科学専攻)・ 教授	教育社会学 京大・教修	歴史研究班、学際教育プログラム (歴史社会学・ジェンダー論)
岩井八郎 (56)	教育学研究科(教育科学専攻)・ 教授	教育社会学 大阪大・学修	数量調査班、学際教育プログラム (計量社会学)
小山静子 (58)	人間・環境学研究科(共生人間学 専攻)・教授	日本教育史 京大・教博	歴史研究班、学際教育プログラム (歴史社会学・ジェンダー論)
新川敏光 (55)	法学研究科(法政理論専攻)・ 教授	福祉国家論・労働政 治 トロント大学・Ph.D	政策研究班、学際教育プログラム (社会政策)
秋津元輝 (52)	農学研究科(生物資源経済学専 攻)・准教授	農業経済学 京大・農博	政策研究班、学際教育プログラム (農村社会学)
若林直樹 (48)	経営管理研究部(経営管理専攻) ・教授	経営組織論 京大・経博	数量研究班、学際教育プログラム (経営組織論)
杉浦和子 (55)	文学研究科(行動文化学専攻)・ 教授	人口地理学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム (人口学)
田窪行則 (61)	文学研究科(行動文化学専攻)・ 教授	言語学 京大・文博	フィールド調査班、学際教育プログラム (韓国語)
木津祐子 (51)	文学研究科(文献文化学専攻)・ 准教授	中国語学 京大・文博	歴史研究班、学際教育プログラム (中国語)
久本憲夫 (56)	経済学研究科(経済学専攻)・ 教授	労働経済学 京大・経博	政策研究班、学際教育プログラム (労働経済論)
横山美夏 (49)	法学研究科(法政理論専攻)・ 教授	民法 早稲田大・法修	理論研究班、学際教育プログラム (民法)
太郎丸博 (43)	文学研究科(行動文化学専攻)・ 准教授	社会階層論・数理社 社会学 大阪大・人間科学修 士	数量調査班、学際教育プログラム (数理社会学)
拠点全体の補助金交付額			134,245 (千円)
(拠点大学：京都大学) (千円)		(〇〇大学) (千円)	
134,245		0	
拠点全体の補助金額に占める拠点大学で使用した補助金額の割合 ③ / (① + ④) × 100%			(%)
			100
拠点大学の補助金額	連携機関への委託費	拠点大学で使用した補助金額	他の大学の補助金額の総額
① ②+③ (円)	② (円)	③ (円)	④ (円)
134,245,000	0	134,245,000	0

教育研究拠点形成実績の概要

本拠点は、現代世界が直面する全体的社会変化を「**親密圏と公共圏の再編成**」と捉え、研究、政策提言を行う学際的分野を創設、人材を養成し、教育・研究両面で協力するグローバルネットワークを構築することを目的とする。平成23年度は、計画の完成と終了後の恒久拠点化を視野に入れた拠点基盤の強化と成果発表に力を入れた。拠点基盤の強化については、海外パートナー拠点数は**4地域11拠点**を加え、**20地域30拠点**となり（別紙1図1）、これら海外パートナー拠点を発起人として**親密圏/公共圏研究コンソーシアム**を設立した。また各拠点との責任分担の平等化による国際ネットワークの永続化の第一歩として次世代グローバルワークショップをソウル大学で開催するとともに、**国際社会学会 (ISA) 家族研究部会の国際セミナー**を開催してアジア地域のネットワーク構築を強化した。学内については、プログラム終了後の事業継続のため「**アジア親密圏/公共圏教育研究センター**」を平成24年4月に文学研究科に設置することが決定され、学内外における拠点形成の基盤が強化された。

こうしたグローバルなネットワークを生かして、「**アジア版エラスムス・パイロット計画**」を実施した。また行政機関・NPO/NGO・メディアとの協働による多様なキャリアパスの支援や研究者の研究/生活の両立支援を行った。さらに、海外パートナーを含む編集委員会による英文ジャーナルの編集を進め、継続的な発行体制を構築した。成果発表に関しては、国際学会での発表、英語論文投稿等への支援を強化した。研究面では、成果シリーズ『**変容する親密圏/公共圏**』2冊を発刊し、英文リーディングス『**アジアの家族と親密性**』の編集を進めた。研究面ではコアプロジェクトが研究成果をあげ、理論化の段階に入った。またアジア横断数量調査のデータの共同分析を進めた。

【運営体制】

(1) **拠点の運営体制**：運営委員会（毎月）、拠点会議（毎週）、事務局会議（毎週）の開催。アドバイザー委員の指導・助言。平成24年度に**アジア親密圏/公共圏教育研究センター**設置決定。

(2) **COE教員・研究員・RA・TA等の雇用（別紙2,3表1）**：准教授2名、助教3名、COE研究員4名（継続2名、新規2名）雇用。週1時間勤務の研究員24名雇用（公募）。RA13名・TA2名雇用。教務補佐員5名雇用、派遣職員4名。（日本学術振興会特別研究員1名雇用）

(3) **国際ネットワーク構築**：**海外パートナー拠点20地域30拠点**に増加。国際会議、次世代ワークショップ、ビジネスミーティング（11月）。コンソーシアムの設立（11月）。ユバスキュラ大学交流会（5月）。東アジアジュニアワークショップ（7月）、韓国研修（8月）、中国研修（8月）。

【人材育成】

(1) **アジア版エラスムス・パイロット計画による海外派遣と海外招へい（別紙4,5,6,7表2）**

若手研究者の**海外派遣30名**（29名他資金＝大航海プログラム「**京都エラスムス計画**」）、**海外招へい4名**（3名他資金）、教員の**海外派遣29名**（14名他資金・先方の招へい）、**海外招へい18名**（8名他資金・自費）。

(2) **次世代グローバルワークショップ開催（別紙8,9,10,11表3）**：若手研究者**海外29名、国内9名、海外アドバイザー36名、京大アドバイザー9名参加**（11月・英語報告原稿の校閲、プレゼンテーション指導、外国語学習補助制度による個人指導）。英語報告原稿収録の**プロシーディングス**発行と優秀な論文を収録した書籍の編集。若手研究者による運営。

(3) **英語論文執筆支援**：英語論文執筆支援制度による国際学会発表や国際雑誌投稿の促進。

(4) **学会発表渡航支援（別紙12表4）**：海外学会発表者**14名**の渡航支援。

(5) **国際ワークショップ**：ユバスキュラ大学との交流会（5月）。台湾大学・ソウル大学と共催の**東アジアジュニアワークショップ**開催（7月・報告者25名）

(6) **グローバル学際教育プログラム（別紙13表5）**：海外パートナー拠点教員の英語オムニバス講義、

学内教員の学際オムニバス講義。語学科目、英語プレゼンテーションの特別演習により英語発表・論文増加。6研究科2研究所の教員・COE教員の専門科目の提供。海外パートナー拠点との連携による海外研修の実施と単位化に向けた協議。

(7) キャリアパスの多様化：自治体・NGO/NPOでのインターシップ^oの実施。京都新聞社との連携による講義。

(8) 次世代研究プロジェクト (【研究活動】参照)

(9) 「リサーチ・ライフ・バランス」プログラムの研究と開発 (【研究活動】参照)

(10) 学位取得者 (別紙14表6)：本拠点で中心的に活動する学生のみ博士号取得者13名(平成20年度～23年度までの総計は38名)。

(11) 研究人材の創出：就職好調。助教3名中3名、研究員28名中10名が、大学教員に採用。

(12) 国際的人材育成プログラム：ステップアップ方式による国際的人材育成体制の確立。

【研究活動】

(1) リーディングス『アジアの家族と親密性』：アジア9地域の収録論文の選択、英訳、編集。

(2) アジア横断数量調査：家族の実態・意識調査。ベトナム・タイ調査の結果を加え比較分析、マレーシア、インドの実査(インドは別資金)。

(3) コアプロジェクト(別紙14表7)：家族、移動、労働、政策、コミュニティ、メディア、歴史、理論、公共圏に関する15の中核的プロジェクトの実施。

(4) 次世代研究プロジェクト：公募形式の「次世代研究」3件(別紙15表8)、「次世代研究ユニット」23件(別紙15,16表9)延べ95名の若手研究者への研究助成。

(5) 「リサーチ・ライフ・バランス」プログラムの研究と開発(別紙16表10)：京都大学女性研究者支援センターとの「京都大学の男女共同参画に資する調査研究」2件の助成。

(6) 研究成果報告会：(4)(5)の研究プロジェクトの研究成果報告会の開催。

(7) 研究横断的なコアプロジェクト報告会：15のコアプロジェクトの報告会の開催。

(8) 国際シンポジウム・セミナー(別紙17表11)：国際会議“Imagining Asia through Cultural Production and Consumption”(ソウル大学との共催)等、主催および学会やNGO/NPOとの共催で実施。

【成果公開】

(1) 次世代グローバルワークショップ・プロシーディングス(別紙18写真1)：次世代研究者37名(日本9名、海外28名)の英文報告論文の発行(執筆指導)。

(2) リーディングス『アジアの家族と親密性』：英語版全7巻の論文選択・英訳ほぼ終了。

(3) シリーズ『変容する親密圏/公共圏』(英・日)：日本語版2巻刊行、2巻編集完了。(別紙18写真2,3)英語版2巻編集完了、2巻編集中。

(4) ワーキングペーパー：次世代研究19点、男女共同参画2点(別紙19写真4,5)。

(5) 英語学術雑誌：Journal of Intimate and Public Spheres 第1号の刊行(別紙19写真6)。

(6) 成果出版：研究成果の出版。(別紙20写真7,8,9)。

(7) 学術論文の発表：多くの研究成果が発表された(別紙21,22,23,24,25,26)。

(8) 京都大学オープンコースウェア：開講科目やシンポジウムのWEB上での公開。

(9) ビデオライブラリー：ビデオ教材『国境を越える女たち』の活用。

(10) 社会連携・実践活動：看護・介護に従事する外国人のためのスキル^oコンテスト開催。

(11) 大学や行政への提言：内閣府、京都府、大阪府、滋賀県、姫路市、神戸市、寝屋川市の男女共同参画政策への政策等提言。高野町史、東近江市史の編纂協力。

(12) 国際シンポジウム：国際社会学会家族研究部会セミナー、日本人口学会国際セミナー開催。アジア学会でセッション

(13) 広報活動：NL7号、8号(別紙27写真10,11)。OCWや研究業績DBのHPでの公開。

教育研究拠点形成に係る成果

【世界的な教育研究拠点形成に向けて改善・整備されたこと】

(1) 海外パートナー拠点との連携の一層の強化

- 1 海外パートナー拠点の追加：4地域の11拠点を追加した。
- 2 アジア版エラスムス・パイロット計画：大航海プログラムにより派遣数が増加。
- 3 国際コンソーシアムの設立：海外パートナー拠点と共に国際ネットワーク永続化のため設立。
- 4 次世代ワークショップ・国際会議のソウル大学での開催：海外パートナー拠点との関係永続化のための負担平等化の試みとして、次世代ワークショップと国際会議をソウル大学で開催した。
- 5 アジアの知的共有基盤形成：リーディングス『アジアの家族と親密性』に収録する論文の翻訳を進め、アジア横断数量調査の実査の追加など、知的共有基盤形成が進展した。
- 6 グローバルネットワークを活用した国際共同研究：コアプロジェクトの国際共同研究が深化した。
- 7 グローバルネットワークの結節点としての英文ジャーナル：海外パートナー研究者との共同編集。

(2) 教育研究のグローバル化を促進する学内体制の整備

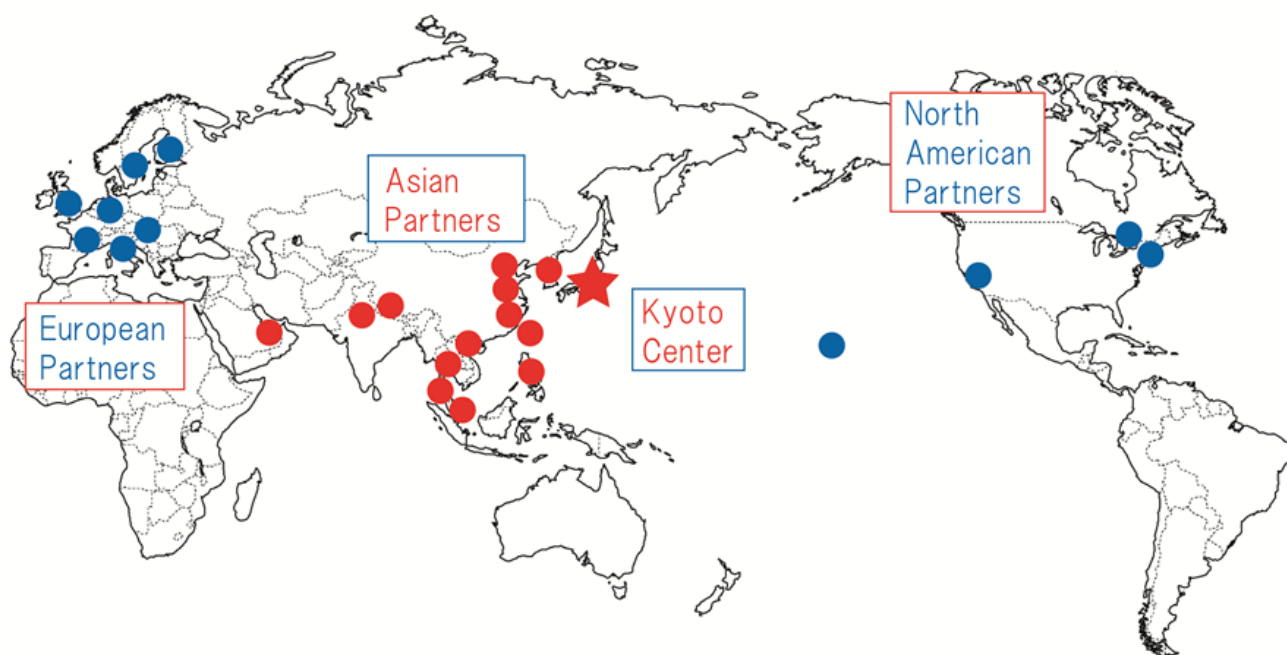
- 1 海外研修の制度化と単位化の準備：韓国研修、中国研修、東アジアジュニアワークショップが定着して、次年度以降の単位化の準備を行った。
- 2 研究科横断的連携による大航海プログラム「京都エラスムス計画」の実施：本拠点を基盤に実施運営し、アジア版エラスムス実現に向け大きく前進した。
- 3 研究科横断的な英語プログラム構築：海外のエラスムス招聘教員による英語オムニバス講義を研究科横断的に提供。他研究科の留学生の受講も多数。
- 4 文学研究科内に「アジア親密圏/公共圏教育研究センター」の設置決定：平成24年4月に「アジア親密圏/公共圏教育研究センター」の設置が決定した。

【研究等によって得られた新たな知見】

- (1) 家族領域：EASS2006の東アジア4社会にタイ、ベトナムを加えた比較分析の成果が得られた。
- (2) 労働領域：日本・韓国・台湾における非正規雇用と失業の比較によって階級構造の変容、性別職域分離、ライフコースの重要性を確認した。
- (3) 移動領域：福祉レジームにおける移住労働者の役割の重要性が確認された。
- (4) 政策領域：アジアのケアレジームを比較検討するためにケアダイヤモンド[®]をスケール化することによって比較検討を行った。
- (5) メディア領域：メディアが果たす「アジア」形成の役割を確認した成果を11月の国際会議で発表した。
- (6) 歴史領域：日本、タイ、韓国での文献資料調査とフィールド調査を通じ、メディアを媒介として形成されたジェンダー・セクシュアリティ文化について、地域固有性と共通性が確認された。

(注) 本様式は拠点大学のみが記入。交付申請書に記載した「拠点形成の目的・必要性」, 「本年度の教育研究拠点形成実施計画」を踏まえ、原則本様式1枚(A4版)に記入すること。

図 1 海外パートナー拠点（20 地域 30 拠点）



海外パートナー拠点（20 地域 30 拠点）

アジア・パートナー（11 地域 16 拠点）：

ソウル国立大学 [韓国]、北京外国語大学 [中国]、復旦大学 [中国]、
 南京大学 [中国]、国立台湾大学 [台湾]、国立中正大学 [台湾]、
 フィリピン大学 [フィリピン]、ベトナム社会科学院 [ベトナム]、
 社会開発研究所 [ベトナム]、チュラロンコン大学 [タイ]、
 タマサート大学 [タイ]、シンガポール国立大学 [シンガポール]、
 デリー大学 [インド]、トリブバン大学 [ネパール]、
 プトラマレーシア大学 [マレーシア]、カタール大学 [カタール]、

ヨーロッパ・パートナー（7 地域 10 拠点）：

ユバスキュラ大学 [フィンランド]、ストックホルム大学 [スウェーデン]、
 ストラスブール大学 [フランス]、オックスフォード大学 [イギリス]、
 ボッフム大学 [ドイツ]、ハイデルベルク大学 [ドイツ]、
 エトベシュ・ロラード大学 [ハンガリー]、
 ハンガリー科学院社会学研究所 [ハンガリー]、
 パドバ大学 [イタリア]、ベネツィア大学 [イタリア]

北アメリカ・パートナー（2 地域 4 拠点）：

ハワイ大学 [アメリカ]、カリフォルニア大学バークレー校 [アメリカ]、
 ハーバード大学 [アメリカ]、トロント大学 [カナダ]

表 1 人材雇用

【COE 教員・研究員・日本学術振興会特別研究員】

	准教授	助教	研究員	研究員 (短時間)	RA	TA
文学研究科		1	1	4	6	2
人間・環境学研究科		1	1	4	3	
教育学研究科					2	
法学研究科				2		
経済学研究科				4	1	
農学研究科				4	1	
学内（上記以外）						
学外	2	1	2	6		
合計	2	3	4	24	13	2

職 名	氏 名	
COE 准教授（2名）	安里 和晃	
	森本 一彦	
COE 助教（3名）	赤枝 香奈子	
	今田 絵里香	
	李 承潤（Sophia LEE）	
COE 研究員（4名）	猪股 祐介	
	川端 浩平	
	平田 知久	
	渡邊 拓也	
COE 研究員（短時間）（24名）	網中 奈美江	戸梶 民夫
	一宮 真佐子	中山 大将
	大野 哲也	平井 芽阿里
	松井（猪股）智子	福浦 一男
	越智 正樹	福田 順
	加藤 敦典	藤坂 恭子
	小島 剛	南 誠
	崔 博憲	宮本（望月）和歌子
	櫻田 貴道	八木 綾子
	櫻田 涼子	柳原 剛司
	白崎 護	吉野 裕介
	土田 陽子	和足 憲明
	日本学術振興会特別研究員（1名）	西川 純司

【RA : 13名】

	氏名	所属	研究課題	受入教員	時間
1	岩島 史	農学研究科	戦後日本農村社会における農村地域社会とジェンダー関係の変容について、農村女性の「主体化」をキーワードとしながら、親密的世界から公共的世界への転換あるいは緊張関係という視点から明らかにする研究	秋津 元輝	200
2	鬼頭 篤史	人間・環境学研究科	戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編	小山 静子	200
3	森山 貴仁	人間・環境学研究科	1960年代以降の現代アメリカ社会を対象とし、理論的枠組みとしては個人化論を援用しながら、社会運動、コミュニティ、及びポピュラー文化の変容を分析することを通して、現代社会における親密圏と公共圏の再編成の様相に関する歴史社会学的知見の蓄積を図る。	吉田 純	180
4	織田 暁子	文学研究科	アジア福祉レジームの比較研究	落合 恵美子	98
5	園 知子	人間・環境学研究科	モダニティ論からみた公共圏の理論的検討	田中 紀行	185
6	蕭 振豪	文学研究科	セクシュアリティと商業戦略 —— 香港のポップカルチャーをめぐる諸問題 ——	平田 昌司	95
7	山本 耕平	文学研究科	インドにおける女性雑誌の研究	押川 文子	195
8	野口 寛樹	経済学研究科	映像コンテンツ産業におけるコンテンツ制作の時系列的な組織間ネットワークの計量分析	若林 直樹	100
9	上山 愛子	文学研究科	現代における公共圏概念のコミュニケーション倫理的考察及び社交の哲学としてのヒューム、スミス、カントの比較研究	水谷 雅彦	200
10	伊達 平和	教育学研究科	アジア家族の数量調査研究	岩井 八郎	195
11	井上 烈	教育学研究科	女性の親密圏と社交に関する比較社会史的研究 —— 日・英・仏比較 ——	稲垣 恭子	80
12	山本 めゆ	文学研究科	現代都市における隔離と統合に関する研究	杉浦 (田中) 和子	185
13	許 燕華	文学研究科	東アジアにおける中国語の歴史的変容課程研究	木津 祐子	185

【TA : 2名】

	氏名	所属	補助授業名	受入教員	時間
1	有本 尚央	文学研究科	地域にまなぶ —— 三重県熊野地域の100年と地域の未来 ——	松田 素二	91
2	サンドロヴ イッチ・ティ ムル	文学研究科	近現代の社会・文化現象の社会学	伊藤 公雄	120

表 2 エラスムス派遣・招へい

【次世代研究者派遣：30名】

	氏名	所属	派遣期間	派遣先
1	オマルジャン・ハサン*	経済学研究科 PD	2011年4月26日～7月15日	University of Pennsylvania (アメリカ)
2	朴 沙羅*	文学研究科博士課程	2011年5月24日～6月1日	The Australian National University (オーストラリア)
3	安井 大輔*	文学研究科博士課程	2011年5月24日～6月1日	The Australian National University (オーストラリア)
4	松井 智子*	COE 研究員	2011年5月27日～7月25日	Chiang Mai University (タイ)
5	郝 洪芳*	文学研究科修士課程	2011年6月21日～6月27日	浙江工商大学 (中国)
6	吉野 裕介*	COE 研究員	2011年7月1日～9月7日	Stanford University (アメリカ)
7	野口 寛樹*	経済学研究科博士課程	2011年7月3日～7月11日	Göteborgs universitet (スウェーデン)
8	山本 めゆ*	文学研究科博士課程	2011年7月6日～7月15日	University of Pretoria (南アフリカ共和国)
9	郝 洪芳*	文学研究科修士課程	2011年7月7日～10月6日	広西民族大学 (中国)
10	鈴木 大介*	文学研究科博士課程	2011年7月10日～7月15日	Lancaster University (英国)
11	中山 大将*	COE 研究員	2011年7月22日～9月20日	南京大学 (中国) 他
12	平田 知久*	COE 研究員	2011年7月23日～9月28日	National University of Singapore (シンガポール) 他
13	オマルジャン・ハサン*	経済学研究科 PD	2011年7月27日～10月15日	新疆大学 (中国)
14	猪股 祐介*	COE 研究員	2011年7月29日～9月27日	東北師範大学 (中国)
15	川端 浩平*	COE 研究員	2011年7月31日～8月20日	Seoul National University (韓国)
16	松谷 実のり*	文学研究科博士課程	2011年7月31日～8月27日	Seoul National University (韓国)
17	安井 大輔*	文学研究科博士課程	2011年7月31日～8月27日	Seoul National University (韓国)
18	片田 晶*	文学研究科博士課程	2011年7月31日～8月27日	Seoul National University (韓国)
19	南 誠*	COE 研究員	2011年8月5日～9月4日	清華大学 (中国)
20	櫻田 涼子*	COE 研究員	2011年8月20日～9月23日	南京大学 (中国)
21	野口 寛樹*	経済学研究科博士課程	2011年9月7日～9月13日	復旦大学 (中国)
22	長坂 真澄*	文学研究科博士課程	2011年9月22日 ～ 2012年2月21日	The Université de Toulouse (フランス) 他

23	上野 大樹	人間・環境学研究科博士課程	2011年11月23日～11月27日	Seoul National University (韓国)
24	片田 晶*	文学研究科博士課程	2011年11月23日～11月27日	Seoul National University (韓国)
25	郝 洪芳*	文学研究科修士課程	2011年11月23日～11月27日	Seoul National University (韓国)
26	櫻田 涼子*	COE 研究員	2011年11月23日～11月27日	Seoul National University (韓国)
27	阿部 友香*	文学研究科博士課程	2011年11月23日～11月27日	Seoul National University (韓国)
28	八木 綾子*	COE 研究員	2012年1月25日～3月28日	Visva Bharati University (インド)
29	安井 大輔*	文学研究科博士課程	2012年1月27日～2月7日	The Australian National University (オーストラリア)
30	朴 沙羅*	文学研究科博士課程	2012年1月27日～2月7日	The Australian National University (オーストラリア)

*大航海プログラム「京都エラスムス」による派遣

【教員派遣（主に海外パートナー拠点への派遣）：29名】

	氏名	所属	派遣期間	派遣先
1	Sophia LEE	COE 助教	2011年6月13日～6月26日	University of Oxford (イギリス)
2	Sophia LEE	COE 助教	2011年7月16日～8月3日	Seoul National University (韓国)
3	今田 絵里香*	COE 助教	2011年7月18日～9月15日	Seoul National University (韓国)
4	松田 素二*	文学研究科教授	2011年8月13日～9月8日	Tribhuvan University (ネパール) 他
5	Sophia LEE	COE 助教	2011年8月14日～9月6日	Seoul National University (韓国)
6	赤枝 香奈子	COE 助教	2011年8月17日～8月31日	Chulalongkorn University, Thammasat University (タイ) 他
7	<u>Sophia LEE</u>	COE 助教	2011年10月19日～11月8日	Seoul National University (韓国)
8	安里 和晃*	COE 准教授	2011年10月28日～11月10日	Strasbourg University (フランス)
9	Sophia LEE	COE 助教	2011年12月20日 ～2012年1月23日	Seoul National University (韓国) University of Oxford (イギリス)
10	<u>安里 和晃*</u>	COE 准教授	2011年12月27日 ～2012年1月12日	Ministry of Education (インドネシア)
11	落合 恵美子	文学研究科教授	2011年3月30日～4月3日	University of Hawaii (アメリカ)
12	岩井 八郎	教育学研究科	2011年3月30日～4月3日	University of Hawaii (アメリカ)
13	<u>落合 恵美子*</u>	文学研究科教授	2011年5月12日～5月15日	Seoul National University (韓国)

14	<u>落合 恵美子*</u>	文学研究科教授	2011年6月4日～6月9日	University of Jyväskylä (フィンランド)
15	落合 恵美子	文学研究科教授	2011年7月31日～8月3日	Seoul National University (韓国)
16	<u>安里 和晃*</u>	COE 准教授	2011年8月7日～8月15日	延辺大学 (中国)
17	<u>秋津 元輝</u>	農学研究科准教授	2011年9月5日～9月16日	Chulalongkorn University (タイ) 他
18	<u>安里 和晃*</u>	COE 准教授	2011年9月10日～9月17日	University of Azores (ポルトガル)
19	Sophia LEE	COE 助教	2011年9月23日～9月27日	Seoul National University (韓国)
20	<u>伊藤 公雄*</u>	文学研究科教授	2011年10月4日～10月9日	Rupecth-Karl University of Heidelberg (ドイツ)
21	<u>落合 恵美子*</u>	文学研究科教授	2011年10月23日～10月27日	National Chung Cheng University (台湾)
22	ライカイ・ ジョンボル	文学研究科 特定准教授	2011年11月1日～11月11日	Hungarian Academy of Sciences (ハンガリー)
23	<u>Sophia LEE*</u>	COE 助教	2011年11月22日～12月1日	Seoul National University (韓国)
24	押川 文子*	地域研究統合情報 センター教授	2011年11月29日～12月6日	University of Delhi (インド) 他
25	横山 美夏	法学研究科教授	2011年11月29日～12月6日	University of Delhi (インド) 他
26	押川 文子	地域研究統合情報 センター教授	2012年2月19日～2月23日	Vietnam Academy of Social Sciences (ベトナム)
27	<u>落合 恵美子*</u>	文学研究科教授	2012年2月19日～2月24日	Vietnam Academy of Social Sciences (ベトナム)
28	<u>落合 恵美子</u>	文学研究科教授	2012年2月27日～3月6日	University of Oxford (イギリス)
29	伊藤 公雄*	文学研究科教授	2012年3月21日～3月29日	Ca' Foscari University of Venice 他 (イタリア)

以下の条件にあてはまる者を列記 (*は他資金による派遣・先方の招へい)

- ・2週間以上の滞在 (1～10)
- ・現地で講演・授業・セミナーを実施 (下線)
- ・海外パートナーへの派遣

【次世代研究者招へい：4名】

	氏名	所属	招へい期間
1	Tuukka TOIVONEN*	University of Oxford (イギリス)	2011年4月1日 ～ 2012年3月31日
2	Carl CASSEGARD*	University of Gothenburg (スウェーデン)	2011年7月7日～8月8日
3	CHANG Cheng-Heng	Academia Sinica (台湾)	2011年10月1日 ～ 2012年1月1日
4	Akio Elias LE GRAND*	University of Borås (スウェーデン)	2012年3月1日～3月31日

*他資金による招へい・来日

【教員招へい：18名】

	氏名	所属	招へい期間
1	<u>ZHOU Weihong</u>	Beijing Center for Japanese Studies (中国)	2011年6月6日～7月4日
2	<u>KHUAT Thu Hong</u> *	Institute for Social Development Studies (ベトナム)	2011年7月15日～12月15日
3	<u>LE Bach Duong</u> *	Institute for Social Development Studies (ベトナム)	2011年7月15日～12月15日
4	Nirmal Man TULADHAR*	Tribhuvan University (ネパール)	2011年8月1日 ～2012年12月15日(予定)
5	<u>Daniel BERTAUX</u>	Centre National de la Recherche Scientifique (フランス)	2011年10月1日～10月31日
6	<u>Thanes WONGYANNAVA</u>	Thammasat University (タイ)	2011年11月7日～12月7日
7	ZHANG Yulin (張玉林)*	Nanjing University (中国)	2012年1月4日～3月31日
8	Maya KELYAN*	Bulgarian Academy of Sciences (ブルガリア)	2012年3月1日 ～2013年3月29日(予定)
9	<u>LEE Hye-Kyung</u>	Pai Chai University (韓国)	2011年6月9日～6月12日
10	<u>Emmanuel TODD</u>	Institut National des Études Démographiques (フランス)	2011年9月10日～9月13日
11	<u>Robert WALKER</u>	University of Oxford (英国)	2011年10月15日～10月23日
12	<u>Mary Johns PICONE</u>	Ecole des Hautes Etudes en Science Sociales (フランス)	2011年11月4日～11月10日
13	<u>Barbara HOBSON</u>	Stockholm University (スウェーデン)	2011年11月27日～12月5日
14	<u>Neil GILBERT</u>	University of California, Berkeley (アメリカ)	2012年2月7日～2月12日
15	Mire KOIKARI*	University of Hawaii (アメリカ)	2012年2月18日, 2012年2月29日～3月3日
16	<u>TSENG Yen-Fen</u>	National Taiwan University (台湾)	2012年2月25日～2月29日
17	<u>LEE Hye-Kyung</u> *	Pai Chai University (韓国)	2012年2月25日～3月1日
18	<u>Fuess HARALD</u> *	Ruprecht-Karl University of Heidelberg (ドイツ)	2012年3月28日～4月5日

以下の条件にあてはまる者を列記 (*他資金による招へい・来日)

- ・2週間以上の滞在(1～8)
- ・講演・授業・セミナーを実施(下線)
- ・海外パートナー

表 3 次世代グローバル・ワークショップ

PROGRAM The 4th Next-Generation Global Workshop “Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization” at Sinyang Humanities Hall, Seoul National University, Korea	
DAY 1: November 24 (Thu), 2011	
10:20 - 10:40	Opening Remarks: Prof. YEE Jaeyeol (Seoul National University) Prof. OCHIAI Emiko (Kyoto University)
Room: I	Globalization and Local Practices
	Chair: William Keli'i Akina (University of Hawaii, USA)
10:40 - 11:00	Chung Inkwan (Seoul National University, Korea) “Why the People in a Fishing Village Couldn't Help Each Other”
11:05 - 11:25	Stephen Danley (University of Oxford, UK) “Local Knowledge and Globalization: Partnerships and Conflict in the Post-Katrina New Orleans Context”
11:30 - 11:50	Glennis S. Uyanguren (University of the Philippines, The Philippines) “Stories of Ketsana, Accounts of Self-Organization: Manifestations of Self-Organization in South Libis, Barangay Banaba, San Mateo, Rizal, Philippines in Their Response to Typhoon Ketsana”
11:55 - 12:15	Wang Meng (Beijing Foreign Studies University, China) “The Relation between the Formation of the Third Sector in Japan and Neoliberalism”
12:20 - 12:40	Comments: Prof. Carl le Grand (Stockholm University)
	Changing Family and Social Policy
	Chair: B.D. Binder (University of London, UK)
14:30 - 14:50	Daniele Brombal (Ca' Foscari University of Venice, Italy) “Health Care System Reform in Contemporary P. R. China: Public Agenda, Private Interests and Global Interactions”
14:55 - 15:15	Jeanette Chua (University of Toronto, Canada) “Globalizing Families: Discourses of International Adoption in Canadian News Media”
15:20 - 15:40	Eunmi Mun (Harvard University, USA) “Workplace Matters: The Use of Maternity and Childcare Leave Policies in Japan”
15:45 - 16:05	Comments: Prof. Gay Satsuma (University of Hawaii)
	Reconsidering Ethics and Politics
	Chair: Jean-Noël Sanchez (Strasbourg University, France)
16:35 - 16:55	Kim Jung Hwan (Seoul National University, Korea) “Dissolution of Solidarity and the End of Politics: Monadization of Political Subject and Its Beyond”
17:00 - 17:20	Ueno Hiroki (Kyoto University, Japan) “From the Rivalry between Republicanism and Absolutism to the Invention of the ‘Nation-State’: Comparing Tocqueville’s ‘Sovereign People’ with Rousseau’s”
17:25 - 17:45	William Keli'i Akina (University of Hawaii, USA) “Classical Confucian Ethics for Global Society: When Ethical Identity Transcends Ethnic Identity”
17:50 - 18:10	Comments: Prof. Pekka Korhonen (University of Jyväskylä)

Room: II	The Policy on Children and Elderly
	Chair: Aki Son-Katada (Kyoto University, Japan)
10:40 - 11:00	Irina van der Vet (University of Jyväskylä, Finland) “The General Assembly as a Playground for States: The Perspectives on Child Policies in the United Nations Debates ‘A World Fit for Children’”
11:05 - 11:25	Dang Bich Thuy (Vietnam Academy of Social Sciences, Vietnam) “Social Problems of Children in the Context of Integration in Vietnam”
11:30 - 11:50	Nopphol Witvorapong (Chulalongkorn University, Thailand) “The Dynamics of Living Arrangements among the Elderly”
11:55 - 12:15	Jariah Masud (Universiti Putra Malaysia, Malaysia) “Gender Differences in Work Aspiration and Status of Older Persons in Malaysia”
12:20 - 12:40	Comments: Prof. Badria Al-Ammari (Qatar University)
	Religion, Intimacy, and Mutual Support
	Chair: Nopphol Witvorapong (Chulalongkorn University, Thailand)
14:30 - 14:50	Mariko Ito (National Museum of Ethnology, Japan) “Living in the Intimacy: A Case Study of Caodaism Community in Hanoi City, Contemporary Vietnam”
14:55 - 15:15	Thien-Huong Ninh (University of Southern California, USA) “‘How the Beloved Mary Became Vietnamese’: Marianism Across Public and Private Spheres Among Vietnamese Catholics in Vietnam, the U.S. and Cambodia”
15:20 - 15:40	Comments: Prof. Yang Der-Ruey (Nanjing University)
	Democracy, Social Movement, and Cold War
	Chair: Tsai Yi-Wen (National Taiwan University, Taiwan)
16:35 - 16:55	Kim Bo-mi (Seoul National University, Korea) “What You Think Is What We Need to Know: Cold War Governmentality and Introduction of Opinion Polls in South Korea, 1945-1948”
17:00 - 17:20	Choi Jong-sook (Seoul National University, Korea) “Transition from Regional Party System to Regional Ideology Party System in Korea’s Democratic Consolidation: Focused on Cooperation between Political Parties and Social Movements”
17:25 - 17:45	Aki Son-Katada (Kyoto University, Japan) “Re-shaping and Ethnic Identity as a Historical Process: A Case of a Zainichi Korean Youth Group”
17:50 - 18:10	Comments: Prof. Mika Toyota (National University of Singapore)

Room: III	Migrating within Asia
	Chair: Sakshi Khurana (University of Delhi, India)
10:40 - 11:00	Erina Seto-Seo (Kyoto University, Japan) “The Human Network of the Resettled Vietnamese Refugees through ‘Securing Daily Meals’: A Case Study of Hyogo Himeji-city”
11:05 - 11:25	Bubbles Beverly Neo Asor (National University of Singapore, Singapore) “Labour Migration and the Politics of Exclusion/Inclusion in ‘Global’ South Korea”
11:30 - 11:50	Jiang Meishan (Seoul National University, Korea) “Research on Han-Chinese Women Marriage Migration in South Korea”
11:55 - 12:15	Hao Hongfang (Kyoto University, Japan) “A Research on Asian Marriage Migrants: Comparative Study between Cases in Japan and Taiwan”
12:20 - 12:40	Comments: Prof. Carolyn Sobritchea (University of the Philippines)
	Reproducing Family
	Chair: Sakurada Ryoko (Kyoto University, Japan)
14:30 - 14:50	Zheng Lejing (Wenzhou Chamber of Commerce, Japan) “A Study of The Wenzhouese in Japan”
14:55 - 15:15	Chen Xi (Fudan University, China) “The Ideality and Reality of Keeping Lineage Continue: A Study Bases on Genealogy”
15:20 - 15:40	Martin Kolk (Stockholm University, Sweden) “Age Differences between Couples in Sweden over Time: Continuity, Divergence, and Globalization”
15:45 - 16:05	Comments: Prof. Rahimah Ibrahim (Universiti Putra Malaysia)

DAY 2: November 25 (Fri), 2011	
Room: I	National Identity and Beyond
	Chair: Kawabata Kohei (Kyoto University, Japan)
10:00 - 10:20	Jean-Noël Sanchez (Strasbourg University, France) “Local Identity, Global Identity and The War of Discourses on Homosexuality in the Philippines”
10:25 - 10:45	B.D. Binder (Heidelberg University, Germany) “Notes on the Transnationalist Paradox of ‘Asian’ and ‘Japanese’ Masculinities in Publications by the Amur Society (Kokuryūkai)”
10:50 - 11:10	Tika Ram Gautam (Tribhuvan University, Nepal) “Dynamics and Dilemma in Nation-Building: Issues of Inclusion in Public Sphere in Nepal”
11:15 - 11:35	Son Joonwoo (Seoul National University, Korea) “Co-Authoring National Issue on Cyber Space: Identifying DPRK and Doing Boundary-Work in Korean Wikipedia”
11:40 - 12:00	Comments: Prof. Fuess Harald (Heidelberg University)

Room: II	Re-defining Work and Life
	Chair: Bubbles Beverly Asor (National University of Singapore, Singapore)
10:00 - 10:20	Ákos Huszár (Hungarian Central Statistical Office, Hungary) “The Political Aspects of Social Stratification”
10:25 - 10:45	Anupama Jacob (University of California, Berkeley, USA) “Poverty in Advanced Industrial Societies: Concepts, Measures, and Responses”
10:50 - 11:10	Tsai Yi-Wen (National Taiwan University, Taiwan) “Tenure Status and Household Expenses under Housing Price Surging: A Case Study of Taiwan (1988-2009)”
11:15 - 11:35	Sophia Seung-yoon Lee (Kyoto University, Japan) “Re-defining Work in Post-industrial East Asian Context: A Literature Review and Research Outline”
11:40 - 12:00	Comments: Prof. Fran Bennett (University of Oxford)

Room: III	Work and Place
	Chair: Jeanette Chua (University of Toronto, Canada)
10:00 - 10:20	Zhou Lei (Nanjing University, China) “Sex Work in the Sino-Vietnamese Borderlands”
10:25 - 10:45	Sakshi Khurana (University of Delhi, India) “Wage Work and Women’s Strategies for Intra-Household Negotiations: Lives of Informal Women Workers in Delhi”
10:50 - 11:10	Abe Yuka (Kyoto University, Japan) “Rethinking Agricultural Servants: A Case Study of “ie” in Shonai Region, Yamagata, Northeastern Japan”
11:15 - 11:35	Sakurada Ryoko (Kyoto University, Japan) “Social Significance of Funeral Announcements and Rethinking Kinship of Chinese Malaysians”
11:40 - 12:00	Comments: Prof. Barbara Hobson (Stockholm University)

表 4 学会発表渡航支援（14名）

	氏名	開催期間	国際学会名（開催地）
1	長坂 真澄	2011年5月1日～3日	North American Levinas Society, Sixth Annual Conference and Meeting “Celebrating <i>Totality and Infinity</i> at 50” (Texas, USA)
2	嶋田 久美	2011年5月24日～28日	Third International Music Therapy Research Conference (Ontario, Canada)
3	朴 沙羅	2011年6月3日～4日	International Conference on Challenging Citizenship <Panel 4: Constructing the Citizenry> (Coimbra, Portugal)
4	田中 亜以子	2011年6月8日～11日	The 9th International Conference on New Directions in the Humanities <Session: Sexuality, Gender, Families> (Granada, Spain)
5	中原 由望子	2011年6月12日～16日	20th World Congress for Sexual Health (Glasgow, UK)
6	福浦 一男	2011年7月26日～28日	11th International Conference on Thai Studies (Bangkok, Thailand)
7	北島 義和	2011年8月22日～25日	The XXIV European Society for Rural Sociology “Inequality and Diversity in European Rural Areas” (Khania, Greece)
8	瀬戸・徐 映里奈	2011年11月24日～26日	The 4th Next-Generation Global Workshop “Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization” (Seoul, Korea)
9	鄭 楽静	2011年11月24日～26日	The 4th Next-Generation Global Workshop “Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization (Seoul, Korea)
10	伊藤 まり子	2011年11月24日～26日	The 4th Next-Generation Global Workshop “Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization” (Seoul, Korea)
11	高 誠晩	2012年2月16日～19日	The 40th World Congress of the International Institute of Sociology (India, Delhi)
12	加藤 敦典	2012年3月15日～18日	The 2012 Annual Conference of the Association for Asian Studies (Toronto, Canada)
13	櫻田 涼子	2012年3月15日～18日	The 2012 Annual Conference of the Association for Asian Studies (Toronto, Canada)
14	菅野 優香	2012年3月21日～25日	The 2012 Annual Meeting of the Society for Cinema and Media Studies (Boston, USA)

表 5 平成 23 年度カリキュラム

2011 年度 GCOE 関連科目開講一覧

科 目		題 目	担 当
基礎講義		日本語学際オムニバス講義「親密圏と公共圏の再編成」	伊藤公雄
		海外研究者による英語リレー講義 Reconstruction of the Intimate and Public Spheres	Sophia Lee・周維宏 (北京学国語大学) ・ Daniel BERTAUX (フランス国立科学研究センター)・ Thanes WONGYANNAVA(タマサート大学)
専門講義	A 群 (理論)	トクヴィル・モメント	富永茂樹
		行為論と社会分析	高橋由典
		空間行動のシミュレーションに関する諸問題	田中(杉浦)和子
	B 群 (歴史)	歴史社会学	稲垣恭子
		人間形成史論	小山静子
		清代域外官話研究	木津祐子
		倉富勇三郎日記を読む	永井 和
		竹内好と魯迅を読む	平田昌司・孫歌
	C 群 (計量)	社会調査の意義と作法	岩井八郎
		社会調査における多変量解析の利用	
		基本的な資料とデータ分析	太郎丸博
		社会調査の実際	
	D 群 (フィールド)	人種・エスニシティ論	竹沢泰子
		地域社会研究における質的調査の技法	秋津元輝
		欧米における農村・農業社会学および農業倫理研究の最前線	
		質的調査法の可能性	
		マッピング、景観と領域編成	小林致広
	E 群 (政策)	福祉国家の政治経済学	新川敏光
		日本企業の人的資源管理	若林直樹
		厚生労働政策	久本憲夫
家族とジェンダーの社会学		落合恵美子	
F 群 (情報・メディア)	現代社会とジャーナリズム	伊藤公雄	
	情報社会ネットワーク論	吉田純	
	社会情報学の諸問題		
基礎コミュニケーション		英語 (Asian Modernities Social Care and Social Security)	Rajkai Zsomer
		中国語 (現代中国の社会問題をめぐる言論状況)	小野寺史郎
		独語 (ドイツ語テキストによる社会学入門)	田中紀行
		仏書講読	田中祐理子
特別演習		英語 (Asian Modernities Social Care and Social Security)	Rajkai Zsomer
専門演習		親密圏と公共圏の再編成	落合恵美子
		ヴィジュアル・ソシオロジーの可能性	伊藤公雄
		比較文化行動論の諸問題	松田素二
		ブルデューの社会学理論	田中紀行
		社会階層論を通して学ぶ社会学研究法	太郎丸博

表 6 2011 年度 GCOE 学位取得者（京都大学）（13 名）

	研究科	氏名	授与年月日	博士論文題目
1	文学	辻内 宣博	2011年5月23日	ビュリダンにおける認識理論と心の哲学 ——アキナス、オッカムとの比較において
2	文学	佐々木 祐	2011年9月26日	先住民集団の「発見」十九——二十世紀ニカラグ アにおけるエスニシティ編成に関する歴史民族誌
3	文学	木村 至聖	2011年9月26日	文化遺産と記憶の社会学——旧産炭地域における 産業遺産の保存と活用をめぐる
4	文学	申 英姫	2011年9月26日	A PHONOLOGICAL STUDY OF YANBIAN KOREAN (延辺朝鮮語の音韻的研究)
5	文学	戸江 哲理	2011年11月24日	子育て支援サークルの会話分析
6	文学	金 京愛	2012年3月26日	現代韓国語の時間関係形式 —— <-ko issd>と<-e iss>の機能を中心に ——
7	人間・ 環境学	梁 雪江 (南 誠)	2011年5月23日	「中国帰国者」をめぐる包摂と排除の歴史社会学 —— 表象と実践の境界文化の政治学 ——
8	人間・ 環境学	柴田 悠	2011年7月25日	再分配の社会学 —— 公的支出の効果と変革 ——
9	人間・ 環境学	坪田 (中西) 美貴	2011年11月24日	日本統治下における台湾先住民の近代経験 —— 北部台湾のタイヤルを中心に ——
10	人間・ 環境学	鄭 楽静	2012年3月26日	在日中国人社会の歴史と現状 —— 在日温州人を中心に
11	人間・ 環境学	博田 (牧野) 雅子	2012年3月26日	刑事司法におけるジェンダーの視点 性暴力被害者の保護から加害者の責任追及へ
12	農学	本田 恭子	2012年3月26日	集落主体による地域資源の保全体制の再編に関する 研究
13	経済学	櫻田 貴道	2011年5月23日	組織における制度形成とリーダーシップ : 制度化プロセスおよび逆機能の防止に関する理論 的考察

表 7 コアプロジェクト

番号	研究領域	タイトル	代表	幹事
1	理論	メディア空間と親密圏/公共圏に関する理論的 研究: アジアとヨーロッパの比較研究の試み	富永 茂樹	平田 知久
2		歴史概念としての親密圏・公共圏の理論的検討	富永 茂樹	平田 知久
3		モダニティ論からみた公共圏の理論的検討	田中 紀行	-
4		アジアの比較家族法	横山 美夏	-
5	コミュニティ	コミュニティ・中間圏研究	秋津 元輝	-
6		南琉球の言語と文化の記録と保存	田窪 行則	-
7	歴史	戦後日本におけるセクシュアリティと親密性 の再編	小山 静子	赤枝 香奈子 今田 絵里香
8		アジアの家族と親密圏	森本 一彦	-
9	政策	比較家族主義福祉レジーム研究	新川 敏光	-
10		アジア福祉レジームの比較研究	落合 恵美子	-
11	家族	数量調査から見るアジアの家族と社会研究	岩井 八郎	-
12	労働	労働と社会階層	太郎 丸博	-
13	移動	人の国際移動と親密圏/公共圏の再編成	安里 和晃	-
14	メディア	ヴィジュアル・イメージと親密圏/公共圏研究	伊藤 公雄・ 杉本 淑彦	-
15	横断	公共圏研究会	安里 和晃	-

表 8 次世代研究

	研究代表者	所 属	身 分	受入教員	研究課題	組織
1	瀬戸・徐映里奈	農学研究科	博士課程	秋津 元輝	在日ベトナム系住民の「食の確保戦略」からみる親密圏の再編成と地域社会への影響	個人
2	本田 恭子	農学研究科	博士課程	秋津 元輝	地域資源管理に対する新住民の意識と参加傾向	個人
3	吉野 裕介	文学研究科	COE 研究員	伊藤 公雄	東アジア諸国におけるハイエックを中心とした新自由主義の受容と展開	個人

表 9 次世代研究ユニット

	研究代表者	所 属	身 分	受入教員	研究課題	組織
1	網中奈美江	文学研究科	COE 研究員	秋津 元輝	原発事故による「風評被害」農産物の流通をめぐる受苦（パトス）の共有	個人
2	猪股 祐介	文学研究科	COE 研究員	松田 素二	満洲移民縁故者による歴史和解に向けた公共圏の構築	個人
3	一宮真佐子	文学研究科	COE 研究員	秋津 元輝	ポピュラーカルチャーの中の農村女性・家族イメージ —— 韓国・タイ・日本の比較 ——	個人
4	岩島 史	農学研究科	博士課程	秋津 元輝	戦後日本農村における国家の介入と農家生活の変容に関する研究 —— 生活改善普及事業と農業機械化の検討を通じて ——	共同
5	百木 漠	人間・環境学 研究科	博士課程	富永 茂樹	親密圏の再帰的近代化と公共性の第三の転換をめぐる研究	共同
6	江南 健志	文学部	非常勤講師	松田 素二	地域社会を媒介とする親密圏および公共圏の再編成に関する社会学的研究	共同
7	越智 正樹	文学研究科	COE 研究員	秋津 元輝	災害復興 50 年の山村社会再編における各種コミュニティの質的転換	共同
8	加藤 敦典	文学研究科	COE 研究員	松田 素二	ベトナム人女性にとつてのオルタナティブな親密圏の構成原理に関する人類学と社会学の国際共同研究 —— 婦人会とカオダイ教寺院の事例より ——	国際
9	川端 浩平	文学研究科	COE 研究員	松田 素二	地域社会で不可視化された領域を考察するための〈方法としてのジモト〉	共同
10	金 允恩	文学部	非常勤講師	松田 素二	在日コリアンの民族教育と公共圏 —— 朝鮮学校、日本の公立学校、地域の教育施設での実践事例の比較から ——	共同
11	許 燕華	文学研究科	博士課程	松田 素二	中国朝鮮族社会における親密圏・公共圏の変容	国際
12	崔 博憲	文学研究科	COE 研究員	秋津 元輝	地域社会における在日外国人の多様化とネットワーク変容に関する実証的研究	共同
13	櫻田涼子	文学研究科	COE 研究員	松田 素二	理想の家族、現実の関係：再編されるマレーシア華人社会の親族関係	個人
14	サンドロ ヴィッチ・ ティムル	文学研究科	博士課程	落合恵美子	トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：家族、コミュニティ、国家、市場 —— 中国、ベトナム、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例として ——	国際
15	戸梶 民夫	文学研究科	COE 研究員	伊藤 公雄	性的市民性と性的少数者運動の公共圏変容 —— 在京同性愛者運動団体におけるエイズ・イシューの取り組みをめぐる ——	個人
16	中山 大将	農学研究科	COE 研究員	秋津 元輝	女性人口移動にみるアジア社会主義システムの再編成と親密圏の変容	共同
17	南 誠	文学研究科	COE 研究員	高橋 由典	「中国帰国者」の境界文化における親密圏と公共圏の変容と再編成	個人
18	平井 芽阿 里	文学研究科	COE 研究員	田窪 行則	愛知・兵庫・神奈川の沖縄県出身者の家族とコミュニティに関する考察 —— 多元主義的アプローチ ——	個人
19	平田 知久	文学研究科	COE 研究員	伊藤 公雄	東アジア諸国におけるインターネットカフェの社会史に関する比較研究	個人

20	宮武実知子	文学研究科	研究指導 認定退学	松田 素二	犠牲者を祈念すること —— 沖縄と濟州の事例を中心に ——	共同
21	柳原 剛司	文学研究科	COE 研究員	久本 憲夫	ハンガリーにおける福祉レジームの変容 —— 雇用政策と社会的包摂政策の観点から ——	個人
22	吉田 正純	教育学研究 科	教育実践 コラボレ ーション ・センター 特任助教	松田 素二	大学非常勤職員のワークライフバランスについ ての研究	個人
23	Sophia LEE	文学研究科	GCOE 助教	落合恵美子	脱産業化時代 —— 東アジアにおける労働の 再解釈 ——	個人

表 10 男女共同参画に資する調査研究

	研究代表者	所 属	身 分	受入教員	研究課題	組 織
1	阪上 雅昭	人間・環境学 研究科	教授	伊藤 公雄	女性表現者の公演企画と活動調査	共同
2	浅井 歩	宇宙総合学 研究ユニット	特定助教	伊藤 公雄	子育て中の保護者を対象とする科学コミュニケ ーション	共同

別紙 17

表 11 主な国際シンポジウム・セミナー

年月日	会議名
2011年4月19日	International Seminar “Greening Cosmopolitan Urbanism? Low-Carbon Lessons from Copenhagen and Kyoto in Sociological Perspective” by Prof. Anders BLOK (Univ. of Copenhagen)
2011年5月17日	International Seminar on “Interdisciplinary Approaches to Concepts in the Intimate and the Public Spheres” with Dep. of Social Sciences and Philosophy, Univ. of Jyväskylä
2011年6月10日	Population Association of Japan & Kyoto Univ. GCOE Symposium “Most Recent Issues in World Population: Fertility Reversal and Marriage Migration”
2011年7月15 ～16日	East Asia Junior Workshop: Inter-University Exchange between National Taiwan Univ., Seoul National Univ., and Kyoto Univ.
2011年7月19日	International Seminar “Mekong Sub-region, Infrastructure Development, Non-Traditional Security, Human Mobility and Animal Trafficking” by Prof. Thanyathip SRIPANA (Chulalongkorn Univ.)
2011年9月12 ～14日	ISA RC06 (CFR) Kyoto Seminar 2011 “Reconstruction of Intimate and Public Spheres in a Global Perspective”
2011年10月11日	International Seminar “Transnational Activities of Female Moroccan Immigrants in Function of the Integration Model of Host Country: Two Models in the Case of Brussels (Belgium)” by Prof. Catherine DELCROIX (Strasbourg Univ.)
2011年10月18日	International Seminar “Shame, Social Exclusion and the Effectiveness of Anti-Poverty Programmes: A Study in Seven Countries” by Prof. Robert WALKER (Univ. of Oxford)
2011年10月22日	Special Lecture “Anthroponomy: The Production by People of People Themselves” by Prof. Daniel BERTAUX (Centre National de la Recherche Scientifique)
2011年11月7日	International Seminar “Problems with Fieldwork, Particularly When Writing about ‘Sensitive’ Subjects; the Example of the Anthropology of Suicide” by Prof. Mary PICON (Ecole des Hautes Etudes en Science Sociales)
	International Seminar “MURA-OKOSHI NO HEN-YO: Hokkaido Oshamanbe-cho ni okeru jirei” by Chang Cheng Heng (Academia Sinica, Taiwan)
2011年11月24 ～25日	The 4th Next-Generation Global Workshop “The Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization”
2011年11月26日	International Conference “Imagining Asia through Cultural Production and Consumption”
2011年12月2日	International Seminar “Do Welfare Regimes Matter? Migration and Care/Domestic Work in Two Institutional Contexts, Sweden and Spain” by Prof. Barbara HOBSON (Stockholm Univ.)
2011年12月10日	International Symposium on “Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: East Europe and East Asia”
2011年12月16日	International Seminar “The Cultural Adaptation and Re-Adaptation of Vietnamese Migrants between Japan and Vietnam and Their Socio-Economic Implications” by Prof. KHUAT Thu Hong & LE Bach Duong (Institute for Social Development Studies, Vietnam)
2011年12月17 ～18日	International Workshop on “Alternative Intimate Spheres for Women in Vietnam”
2011年12月19日	International Workshop on “Current Anthropology on Vietnam”
2012年1月14 ～15日	International Workshop on “Space and Governance”
2012年2月10日	International Seminar “Skill Wage Gap in Service Economy” by COE Asst. Prof. Sophia LEE
	International Seminar “A Mother’s Work: Why Are So Many Women Not Having Children?” by Prof. Neil GILBERT (UC Berkley)
2012年2月28日	International Symposium on “Greying Asia and International Moveent of Nursing/Carework”
2012年3月18日	Annual Conference of the Association for Asian Studies, Panel “Reconstruction of Intimate and Public Spheres in Asia: Circumstantial Nexuses of People with Child Birth and Child Care in Japan, Malaysia, Taiwan, and Vietnam, ” organized by Kato Atsufumi

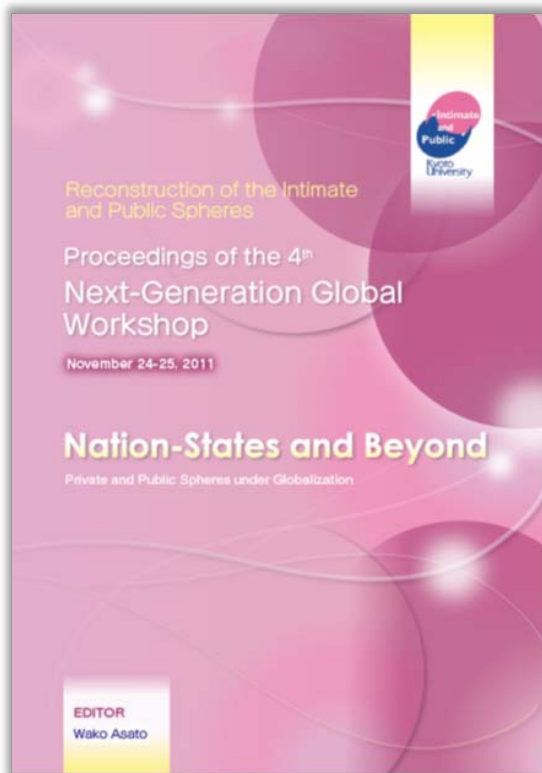


写真 1： 第 4 回次世代グローバルワークショップ・プロシーディングス

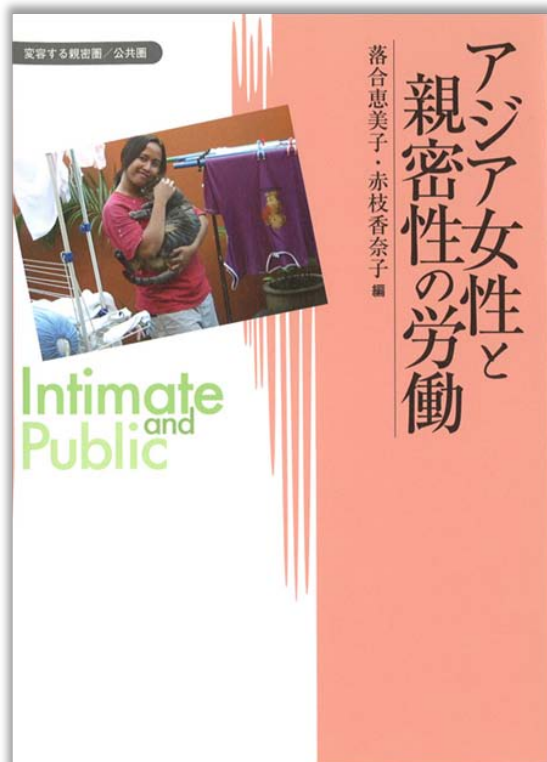


写真 2： 『アジアの女性と親密性の労働』
落合恵美子・赤枝香奈子（編）

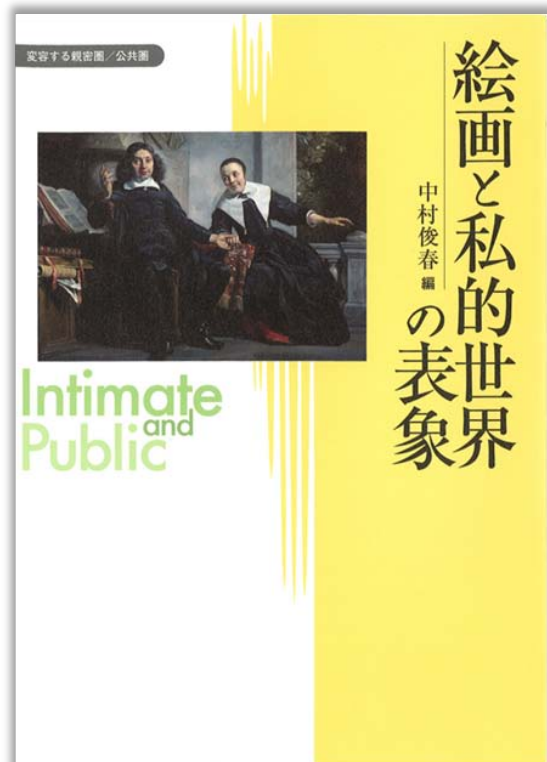


写真 3： 『絵画と私的世界の表象』
中村俊春（編）



写真 4： 2011 年度次世代研究
ワーキングペーパー（19 点）

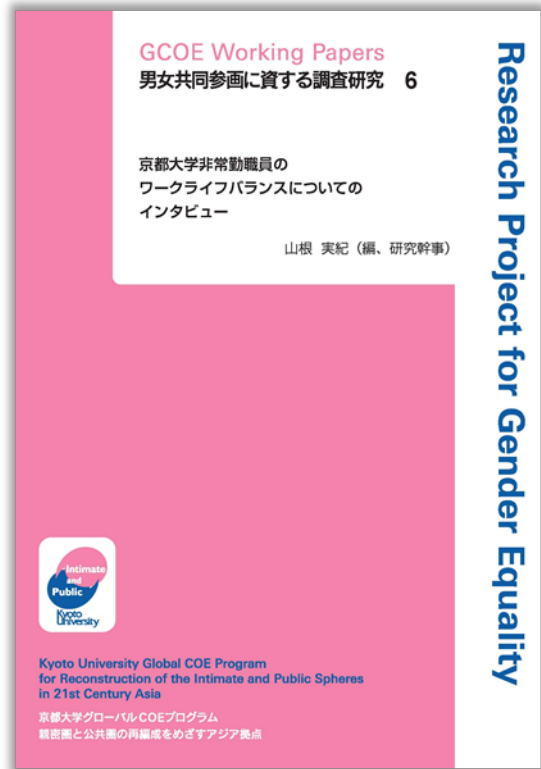


写真 5： 2011 年度京都大学における
男女共同参画に資する調査研究
ワーキングペーパー（2 点）



写真 6： Journal of Intimate and Public Spheres 第 1 号



写真 7：『国境を越えるアジアの家事労働者
女性たちの生活戦略』
上野加代子（著）

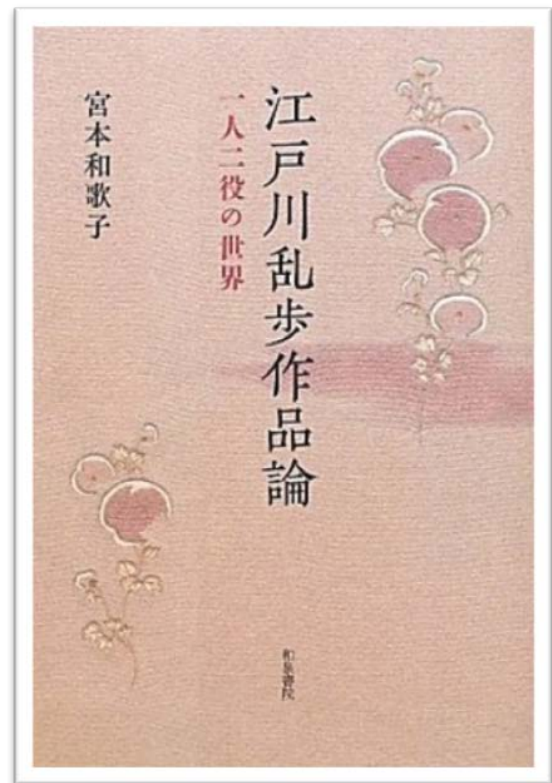


写真 8：『江戸川乱歩作品論
— 一人二役の世界』
宮本和歌子（著）



写真 9：『体制転換と社会保障制度の再編
— ハンガリーの年金制度改革』
柳原剛司（著）

主な論文

【著書（単著、編著、共著）：日本語】

- 上野加代子『国境を越えるアジアの家事労働者——女性たちの生活戦略』世界思想社 2011
- 宮本和歌子『江戸川乱歩作品論——一人二役の世界』和泉書院 2012
- 柳原剛司『体制転換と社会保障制度の再編：ハンガリーの年金制度改革』京都大学学術出版会 2011
- 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 別巻 社会学的思考』世界思想社 2011
- 落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 2012
- 新川敏光編『福祉レジームの収斂と分岐：脱商品化と脱家族化の多様性』ミネルヴァ書房 2011
- 中村俊春編『絵画と私的世界の表象』京都大学学術出版会 2012
- 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『改訂版 女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣 2011
- 戦友会研究会（伊藤公雄・植野真澄・河野仁・島田真杉・高橋三郎・高橋由典・新田光子・溝部明男・吉田純）『戦友会研究ノート』青弓社 2012

【編著論文：英語】

- LEE, Sophia. “New Risk? Labour Market Risks in Deindustrializing Asian Economies: Taiwan, Japan and the Republic of Korea” Gyu-Jin HWANG ed., *New Welfare States in East Asia: Global Challenges and Restructuring*, Edward Elgar, pp. 61-89, 2011.
- TAROHMARU, Hiroshi. “Income Inequality between Standard and Nonstandard Employment in Japan, Korea and Taiwan,” Yoshimichi SATO and Jun IMAI eds., *Japan's New Inequality*, Trans Pacific Press, pp. 54-70, 2011.

【編著論文：日本語】

- 青山薫「セックスワーカーの人権・自由・安全——グローバルな連帯は可能か」辻村みよ子編『ジェンダー社会学の可能性1 かけがえのない個から——人権と家族をめぐる法と制度』岩波書店 135-158頁 2011
- 青山薫「日本における移住セックスワーカー——『社会的排除』に遭う変化の体現者」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 283-304頁 2012
- 安周永「韓国型第3の道の挫折——開発主義の遺産と支持動員の失敗」新川敏光編『福祉レジームの収斂と分岐：脱商品化と脱家族化の多様性』ミネルヴァ書房 288-308頁 2011
- 伊藤公雄「男性学・男性性研究からみた戦後日本社会とジェンダー」辻村みよ子・大沢真理編『ジェンダー社会科学の可能性3 壁を超える』岩波書店 91-117頁 2011
- 上野加代子「シンガポールにおける海外出稼ぎ家事労働者の抵抗の諸相」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 253-281頁 2012
- 上野大樹「ジャン＝ジャック・ルソー：『市民』であるとはどういうことか？」大澤真幸編『3・11後の思想家25』左右社 14-28頁 2012
- 押川文子「インド都市中間層における『主婦』と家事」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 81-110頁 2012

- 落合恵美子「親密性の労働とアジア女性の構築」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 1-34頁 2012
- 郝洪芳「業者婚をした中国女性の主体性と葛藤」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会 231-252頁 2012
- 加藤敦典「義のない風景——ベトナムの文学作品にみる法と社会の外がわ」石田慎一郎編『オルタナティブ・ジャスティス—新しい〈法と社会〉への批判的考察』大阪大学出版会 279-302頁 2011
- 加藤敦典「近代のプロジェクトとしての村落調停——社会主義建設期ベトナムの和解組制度にみる共同体の物語」小長谷有紀・後藤正憲編『社会主義的近代化の経験——幸せの実現と疎外』明石書店 46-69頁 2011
- 崔博憲「外国人労働者問題の根源を考えるためのノート」池田光穂編『コンフリクトと移民』大阪大学出版会 211-240頁 2012
- 新川敏光「日本型福祉レジーム論をめぐる対話」齊藤純一・宮本太郎・近藤康史編『社会保障と福祉国家のゆくえ』ナカニシヤ出版 69-92頁 2011
- 新川敏光「福祉国家変容の比較枠組」『福祉レジームの収斂と分岐：脱商品化と脱家族化の多様性』新川敏光編，ミネルヴァ書房 1-49頁 2011
- 新川敏光「日本型家族主義変容の政治学」新川敏光編『福祉レジームの収斂と分岐：脱商品化と脱家族化の多様性』ミネルヴァ書房 309-331頁 2011
- 太郎丸博「若年非正規雇用と結婚」佐藤嘉倫・尾嶋史章編『現代の階層社会 1：格差と多様性』東京大学出版会 131-142頁 2011
- 太郎丸博「自立困難な若者の研究動向」宮本みち子・小杉礼子編『二極化する若者と自立支援』明石書店 78-95頁 2011
- 柄澤健史・太郎丸博「若年不安定就労層に見る地域格差」佐藤嘉倫・尾嶋史章編『現代の階層社会 1：格差と多様性』東京大学出版会 81-96頁 2011
- 中村俊春「家族、母子、家庭のイメージ読解のための序論」中村俊春編『絵画と私的世界の表象』京都大学学術出版会 1-60頁 2012
- 中山大将「二つの帝国、四つの祖国——樺太／サハリンと千島／クリル」蘭信三編『アジア遊学 145 帝国崩壊とひとの再移動』勉誠出版 201-215頁 2011
- 南誠「国籍とアイデンティティのパフォーマンス・ヴィティ」陳天璽・近藤敦・小森宏美・佐々木てる編『越境とアイデンティフィケーション——国籍・パスポート・IDカード』新曜社 295-319頁 2012
- 平川佳世「家族の肖像——クエンティン・マセイス《聖女アンナ祭壇画》にみる理想の家族像」蜷川順子編『初期ネーデルラント美術にみる個と宇宙 第1巻』ありな書房 129-162頁 2011
- 平川佳世「聖なるもの、家族、政治——クラナハ作『聖親族祭壇画』をめぐる」中村俊春編『絵画と私的世界の表象』京都大学学術出版会 61-88頁 2012
- 吉野裕介「ハイエクの思想から読み解くオープンガバメント——情報化社会における市場の機能と政府の役割」西田亮介・塚越健司編『「統治」（ガバナンス）を創造する——新しい公共・オープンガバメント・リーク社会の衝撃』春秋社 147-189頁 2011

【学術論文：英語】

- ASATO, Wako. "Nurses from Abroad and the Formation of a Dual Labor Market in Japan," *Southeast Asian Studies*, Vol. 49, No. 4, pp. 652-669, 2012. 査読有
- BELANGER, Danièle., Kayoko UENO, KHUAT Thu Hong and Emiko OCHIAI, "From Foreign Trainees to Unauthorized Workers: Vietnamese Migrant Workers in Japan," *Asian and Pacific Migration Journal*, Vol. 20, No. 1, pp. 31-53, 2011. 査読有
- HIRATA, Tomohisa. "Being Quiet in Internet Cafes: Private Booths and the Isolation of Net Cafe Nanmin," *Journal of Socio-Informatics*, Vol. 4, No. 1, pp. 41-48, 2011. 査読有
- HISAMOTO, Norio. "The Functions and Limits of Enterprise Unions in Individual labor Disputes," *Japan Labor Review*, Vol. 9, No. 1, pp. 44-62, 2012. 査読無
- LEE, Sophia. "The Shift of Labour Market Risks in Deindustrializing Taiwan, Japan and Korea", *Perspectives on Global Development and Technology*, Vol. 10, No. 2, pp. 241-269, 2011. 査読有
- LEE, Sophia. "The evolution of Welfare Production Regime in East Asia: A Comparative Study of Korea, Japan and Taiwan", *The Korean Journal of Policy Studies*, Vol. 26, No. 1, pp. 49-75. 査読有
- LEE, Sophia. "A Critique of Fuzzy-set Method in Comparative Social Policy", *Quality and Quantity*, (forthcoming in print, published on-line Nov. 2011). 査読有
- MORIMOTO, Kazuhiko. "Rethinking Ie (A Japanese Traditional Family): Focusing on Relationship between Wife and Her Parents' Home," *Journal of Intimate and Public Spheres*, No. 1, pp. 4-16, 2011. 査読有
- NAKATANI, Ayami. "Housewives' Work and/or Mothers' Work? The Changing Positions of Housework in Dutch Society," *Journal of Intimate and Public Spheres*, No. 1, pp. 75-91, 2011. 査読有
- OCHIAI, Emiko. "Asian Families and Intimacy: A Book Series on Asian Intellectual Heritage from Nine Societies," *Journal of Intimate and Public Spheres*, No. 1, p. 3, 2011. 査読有
- OCHIAI, Emiko. "Love and Life in Southwestern Japan: the Story of a One-Hundred-Year-Old Lady," *Journal of Comparative Family Studies*, Vol. 42, No. 3, pp. 399-409, 2011. 査読有
- OSHIKAWA, Fumiko. "The "Housewife" and Housework in the Indian Urban Middle Class," *Journal of Intimate and Public Spheres*, No. 1, pp. 92-112, 2011. 査読有
- OSHIKAWA, Fumiko. "Reconsidering the Role of Housewife," *Journal of Intimate and Public Spheres*, No. 1, pp. 55-56, 2011. 査読有
- SUZUKI, Daisuke. "On the Pragmatic Functions of Modal Adverbs: A Corpus-based Study of Linguistic Variations in Present-day English," *Zephyr*, Vol. 24, pp. 1-21, 2011. 査読有
- SUZUKI, Daisuke. "A Corpus-based Study of the Synonymic Expressions *No more than*, *Only* and *Mere*: From the Viewpoint of Mental Attitude," *Kyoto Working Papers in English and General Linguistics*, Vol. 1, pp. 223-239, 2011. 査読有
- TAKUBO, Yukinori. "Japanese expression of temporal identity: temporal and counterfactual interpretation of tokoro-da," *Japanese/Korean Linguistics*, Vol. 18, pp. 392-409, 2011.
- TANAKA, Aiko. " "Don't Let the Geisha Steal Your Husband": The Reconstruction of the Wife in Interwar Japan," *US-Japan Women's Journal*, Vol. 40, pp. 122-146, 2011.

【学術論文：仏語】

KAWANO, Eiji. “Insécurité de l'emploi et insécurité de parcours des travailleurs japonais,”
Informations Sociales, No. 168, pp. 22-29, 2011. 査読有

【学術論文：韓国語】

高誠晩「海外事例との比較——沖縄」『済州道日帝軍事施設総合調査報告書』270-286頁 2011

【学術論文：日本語】

安周永「発展指向型国家の多様性と財政政策の相違（一）——日韓における財政赤字の政治過程」『法学論叢』第169巻第1号 161-179頁 2011

安周永「発展指向型国家の多様性と財政政策の相違（二・完）——日韓における財政赤字の政治過程」『法学論叢』第169巻第4号 69-92頁 2011

井岡瑞日「フランス第三共和政期前半における女子中等教育と『家庭教育』——週刊誌『ル・プチ・エコー・ド・ラ・モード』の分析を中心に——」『日本の教育史学』第54集 109-121頁 2011 査読有

伊藤公雄「『男女共同参画』政策の過去・現在・未来」『ジェンダーと法』第8号 5-17頁 2011 査読有

猪股祐介「満洲移民の引揚経験」『アジア遊学』第145号 66-75頁 2011

川野英二「フランス都市社会政策と社会的不利地区」『部落解放研究』第193号, pp. 85-98, 2011 査読無

川端浩平「不可視化されるマイノリティ性——ジモトの部落、在日コリアン、ホームレスの若者たちの研究調査をめぐる軌跡から」『解放社会学研究』第25号 91-112頁 2011 査読有

許燕華「中国朝鮮族のトランスナショナルな移動生活——在韓出稼ぎ女性のライフ・ヒストリーから」『京都社会学年報』第19号 39-59頁 2011 査読有

韓美蘭・許燕華「国際労働力移動とそれに伴う送金に関する一考察——中国吉林省の事例から」『経済学論究』第65巻第4号 121-144頁 2012 査読有

高誠晩「済州海軍基地と四・三過去清算」『インパクション』第183号 76-84頁 2012

新川敏光「ポスト社会民主主義政治の展望」『思想』第1047号 32-52頁 2011

新川敏光「福祉レジーム転換と構造改革」『民商法雑誌』第145巻第2号 143-180頁 2011

新川敏光「ベーシックインカムと自由」『月刊社会民主』第679号 7-11頁 2011

新川敏光「国民年金と社会的連帯：政策決定分析からの一考察」『季刊社会保障研究』第47巻第3号 231-243頁 2011

鈴木大介「初期近代英語における no doubt 及び関連表現について——シェイクスピア作品の分析から——」『Zephyr』第24号 22-34頁 2011 査読有

園知子「『京都ネットワーク』と『芸術家村』——公共圏における知識人論を分析視角として——」『フォーラム現代社会学』第10号 161-172頁 2011

高橋頭也「ルーマンの社会理論におけるメディア概念の位置と可能性——『システムによる構成』から『システムの発生』をめぐる問題へ——」『ソシオロジ』第173号 19-34頁 2012

田窪行則「宮古池間方言の調査について」『日本語学』第36巻第5号 24-33頁 2011

- 田窪行則「危機言語ドキュメンテーションの方法としての電子博物館作成の試み——宮古島西原地区を中心として——」『日本語の研究』第7巻4号 119-134頁 2011
- 田中紀行「ヴェーバー受容と現代社会学」『社会学雑誌』第27・28号 12-27頁 2011 査読無
- 土田陽子「近代和歌山市における公立名門高等女学校の利用層——文教地区の成立過程に注目して——」『神戸女子大学教育諸学研究』第25巻 53-65頁 2011 査読有
- 中村俊春「ルーベンス工房のヴァン・ダイク」『京都美学美術史学』第10号 39-83頁 2011 査読有
- 中山大将「権太移民社会の解体と変容——戦後サハリンをめぐる移動と運動から——」『移民研究年報』第18号 3-31頁 2012
- 西嶋亜美「ドラクロワ作『墓地のハムレットとホレーシオ』——演劇の豊饒さから絵画独自の効果へ——」『美術史』第172冊 173-191頁 2012 査読有
- 朴沙羅「物語から歴史へ：社会学的オーラルヒストリー研究の試み」『ソシオロジ』第56巻1号 39-54頁 2011
- 久本憲夫「個別労働紛争における労働組合の役割」『日本労働研究雑誌』第613号 16-28頁 2011 査読無
- 平尾一朗・太郎丸博「世代間移動レジームにおける非正規雇用の位置」『理論と方法』第26巻第2号 355-370頁 2011 査読有
- 平川佳世「スプランゲルのイタリア滞在——銅板油彩画の観点から——」『京都美学美術史学』第10号 133-162頁 2011 査読有
- 平田知久「E. A. ポーと二つのテレパシーの交錯——二人のジャックによせて (1)」『Becoming』第29号 66-98頁 2012 査読有
- 溝口佑爾「世代間援助意識の変容にみる女性の高学歴化の影響：EASS 2006 を用いた比較分析」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[12] JGSS Research series No. 9』169-181頁 2012 査読有
- 溝口佑爾「メディアの生成する場を被災地に見る：被災写真とルーマンメディア論の交互作用」『社会システム研究』第15号 33-44頁 2012 査読有
- 宮本和歌子「江戸川乱歩『闇に蠢く』論」『国語国文』第80巻第6号 39-53頁 2011 査読有
- 山本めゆ「人種概念としての『名誉白人』——アパルトヘイト期南アフリカの日本人コミュニティに注目して」『ソシオロジ』第173号 103-119頁 2012
- 和足憲明「地方財政赤字の政治経済学——米英独仏との比較における日本（三・完）」『法学論叢』第169巻第3号 2011

【その他】

- ASATO, Wako ed., *Proceedings of the 4th Next Generation Global Workshop*, 2012.
- FUKUDA, Jun. "Shareholder Structure and Dividend Rate in Japanese Firms: Analysis Using Panel Data," 京都大学大学院経済学研究科プロジェクトセンター ディスカッションペーパー シリーズ E-11-003, 2011. 査読無
- MINAMIDE, Kazuyo and Fumiko OSHIKAWA eds., *Right to Education in South Asia: Its Implementation and New Approaches* (CIAS Discussion Paper No.24), Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, 2012.

- 伊藤公雄「論文を書く——H・S・ベッカー『論文の技法』（1986）」井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 別巻 社会学的思考』世界思想社 227-236頁 2011
- 上野大樹・施光恒・前川真行・隠岐さや香・吉見俊哉『歴史概念としての〈公共圏〉と〈公共哲学〉——リベラル・モデルとは異なる公共性の別様の理解をめざして』京都大学グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」理論研究班 2012
- 櫻田涼子・中山大将編『京都エラスムス計画 2011 年度中国社会研究短期集中プログラム成果報告：京都大学・南京大学若手研究者共同フォーラム報告論文集』 2011
- 高橋由典「理念型 M. ヴェーバー『社会科学と社会政策に関わる認識の「客観性」』」井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 別巻 社会学的思考』世界思想社 23-32頁 2011
- 田中紀行「社会学と歴史学 P. バーク『歴史学と社会理論』（1992）」井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 別巻 社会学的思考』世界思想社 135-144頁 2011
- 太郎丸博「A. ラパポート/A. M. チャマー『囚人のジレンマ』」井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 別巻 社会学的思考』世界思想社 177-186頁 2011
- 吉野裕介「ハイエク『隷属への道』再考——F.マハループの貢献とアメリカにおける受容」『第75回経済学史学会大会報告集』 154-159頁 2011

Intimate and Public
News Letter Vol.7
CONTENTS

(ニュース)

02 親子アジアワークショップ
— 早稲田大学・ソウル大学・東洋大学共同—【太郎丸博】

03 参加者からのメッセージ

(ニュース)

04 国際社会学会法政研究会 国際セミナー 2011
【藤田 雅洋子】

05 「社会階級と家族」セッションに参観して【中村ケンツ 眞子】

(ニュース)

06 国際学協会
「現代世界の国際人口問題：出生率回復と移民」
【小崎 実】

(ニュース)

08 ソウル大学韓語社会総合プログラム【川端 尚中】

07 若狭新卒子「近代日本に於ける女博士の模範的肖像」
【内川学宮山 眞, 2011年】【伊藤 智洋子】

07 コアプロジェクト4：アジアの比較宗教学【山本 真直】
【渡辺トナチ 眞直子】

08 東アジアでの伝統的習俗【シュムライ、ペーテル】

09 家族のなごり— 福岡 1ヶ月間【岡 健太郎】

10 講座録【伊藤 公雄】

11 活動記録

(News 1)

02 East Asia Junior Workshop: Inter-University Exchange between National Taiwan University, Seoul National University and Kyoto University. [TOMOYUKI HIRATAKI]

03 Messages from Participants

(News 2)

04 ISA RCSE - CRH Kyoto Seminar 2011. [JOCHAN ENKI]

05 The Seminar "Social Policy and Family". [SIF-SALUNIZ MASAKI]

(News 3)

06 International Conference "Most Recent Issues in World Population: Fertility, Fertility and Migration". [KOJIMA HISAKI]

(News 4)

08 SNU - SKU Korean Language and Korean Studies Program. [KAWAKUBA KOICHI]

(Research Publication)

07 Modern Japan, Imperialist Relations for behavior [Yaman in Modern Japan: Academic Background (Shogun, 2011) [AT-ASIA YAMANO]

(Care Project)

07 COE/ICM/JICA Co-operative Studies on Asian Family Law [Messages from Overseas Partner]

08 Using Experiences from East Asia. [SOMLAI PATTI]

(Research Publication)

09 A Worth of Roby Lacatus is a Rich Experience [COJ Meeting]


(Journal of Institutes and Public Spheres)

10 The Intimate Spheres. [TOKI KIMIKO]

11 Activity Report

News Letter Vol.8
November 2011

Intimate and Public



京都大学グローバル COE
「親密圏と公共圏の再編成をめぐるアジア視点」
Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

写真 10： ニュースレター7号

Intimate and Public
News Letter Vol.8
CONTENTS

(ニュース)

02 ソウル大学 国際学協会 第4回国際フォーラム「グローバルワークショップ「現代社会を築いて—グローバル化と市民社会の発展」【ソフィア・リー】

04 次世代研究者からのメッセージ

(ニュース)

05 国際学協会
"Imagining Asia through Cultural Production and Consumption" 【伊藤 公雄】

(ニュース)

06 ワークショップ「ベトナム人女性にとってのオルタナティブな家」【日藤 敦夫】

(ニュース)

07 シンポジウム「読者する共同体、公共圏」
【東大出版会、ブリル社より議決発行】[COOE 出版委員会]

(ニュース)

08 家族の歴史【ジニエル、ペルトー】
【ユキタカ 明彦】

09 近代の地景と文化地景について研究
【チャン、チェンハン】

10 公共圏とメディア 【西岡 眞】

11 活動記録

(News 1)

02 The Next Generation Social Workers "Nation, State and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization". Co-Organized by Seoul National University & Kyoto University. [Sophia LEE]

04 Messages from Next Generation Researchers

(News 2)

05 International Conference "Imagining Asia through Cultural Production and Consumption". [ITO KIMIKO]

(News 3)

06 Workshop on "Alternative Intimate Spheres for Women in Vietnam". [KAWA D Atsumu]

(Research Publication)

07 New Book Series: Transformation of the Intimate and the Public [Kyoto University Press / BRIL]. [COOE Publishing Committee]

(Journal of Institutes and Public Spheres)

08 Teaching in Kyoto. [SHERIDAN BERGHAUS]

09 Research on Japan's Local Community and Cultural Economy [Journal of Institutes and Public Spheres]


(Journal of Institutes and Public Spheres)

10 The Public Spheres and the Media. [YOSHIDA Jun]

11 Activity Report

News Letter Vol.8
March 2012

Intimate and Public



京都大学グローバル COE
「親密圏と公共圏の再編成をめぐるアジア視点」
Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

写真 11： ニュースレター8号

資料 1 研究拠点形成費等補助金若手研究者研究活動経費取扱要領

平成 16 年 4 月 1 日
 研究担当理事裁定制定
 平成 17 年 10 月 1 日一部改正
 平成 19 年 9 月 1 日一部改正
 平成 20 年 10 月 1 日一部改正

(目的)

第 1 この要領は、本学における研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)による若手研究者の自発的研究に必要な経費(以下「若手研究者研究活動経費」という。)を使用する場合に必要な事項を定めることを目的とする。

(選考手続)

第 2 拠点リーダーは、若手研究者研究活動経費を使用する場合には、事業推進担当者(拠点リーダーを含む。)5名以上からなる選定委員会により研究活動計画等の審査を行い、選定した者を記した若手研究者研究活動経費受給候補者申請書(様式第 1)(以下「申請書」という。)により総長に提出するものとする。

2 総長は、前項で提出された申請書により受給者の決定を行うものとする。

(選定人数の上限)

第 3 拠点リーダーは、当該年度内の受給者の選定人数について、予め上限を定めておくものとする。
 2 年度の中途において、前項の選定人数を変更する場合は、若手研究者研究活動経費選定人数変更届(様式第 2)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(受給資格)

第 4 若手研究者研究活動経費の受給者は、次の各号に該当する者とする。

(1) 当該拠点を形成する専攻等で研究を行う大学院博士課程在籍者又は大学院博士課程修了者であること。

(2) 世界的な研究拠点を形成するために必要かつ優秀な者であること。

(3) 他から類似の経費を受給していないこと。

(経費の執行)

第 5 受給者は、本学の会計規程等を遵守し、受入教員を通して若手研究者研究活動経費の執行を行うものとする。

2 受給者は、当該拠点事業に必要な研究活動以外に若手研究者研究活動経費を使用してはならない。

3 若手研究者研究活動経費は、年度を超えて支出することはできない。

(研究活動計画の変更)

第 6 拠点リーダーは、受給者が研究活動計画を下記の要件により変更する場合には、若手研究者研究活動計画等変更届(様式第 3)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

なお、その他の要件により変更がある場合は、個別協議とする。

(1) 受入教員を変更する場合。

(2) 経費の流用が総額の 30%以上で行われる場合。

(研究活動計画の中止、研究活動の辞退)

第 7 拠点リーダーは、受給者が受給資格の要件を欠くに至った場合若しくは受給者の異動その他の理由により研究活動の遂行が不可能となった場合には、若手研究者研究活動計画等辞退届(様式第 4)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(支給金額)

第 8 若手研究者研究活動経費の支給限度額は、受給者 1 人に対し、年間 150 万円(大学院博士課程修了者は、300 万円)を上限とする。

(研究活動報告)

第 9 受給者は、当該研究活動終了後、速やかに若手研究者研究活動経費収支簿(様式第 5)及び若手研究者研究活動結果報告書(様式第 6)を当該拠点リーダーに提出するものとする。

(その他)

第 10 若手研究者研究活動経費の執行等にあたっては、「研究拠点形成費等補助金交付要綱」(平成 14 年 4 月 1 日文科科学大臣)、「研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)取扱要領」等に従って取扱うものとする。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 10 月 1 日から施行し、平成 20 年 4 月 1 日から適用する。